

▼ 日程第1 一般質問

〔今泉藤一郎議長〕 日程第1、これより前日に引き続き一般質問を行います。8番議員 福島日人士君。

〔8番 福島日人士君〕 8番議員 福島、議長の通告の許可を頂きましたので、質問に、私の質問の項目に従ってやりたいと思っています。緊張していますけども皆さんよろしく願いいたします。それでは、私の質問の項目ですけども。まず、高齢者の介護保険料対策について。そして、2項目目が、歴史と文化の森公園の利用状況について。3番目が、本村楠木原線と佐世保市の横手町の道路の接続の状況をお聞きしたいと思っております。まず最初に、高齢者の介護保険料の、介護保険料について。まず、厚生労働省は2024年度から26年度に支払う65歳以上の介護保険料、月額が全国平均で6,225円、過去最高を更新したという発表がありました。介護職員の賃上げのため、サービスの公定価格、介護報酬を24年度に増額改訂したことも保険料アップに影響したと思われます。県内、有田町の介護保険料の現状をお聞かせください。

〔今泉藤一郎議長〕 健康福祉課長。

〔川崎健康福祉課長〕 介護保険料の現状についてお答えをいたします。65歳以上の方が支払う介護保険料につきましては、3年毎に見直すこととなっており、今年度から令和8年度までの介護保険料が改訂となっております。介護保険料は、各市町村の介護サービスに必要な費用の見込みに基づき算出されますので、各市町村によって保険料は異なることとなります。今回の改定により、月額基準額、ちょっと先程議員もおっしゃいましたけども、全国平均が6,225円となっており、この数値は前回の改定から211円、率にすると3.5%の増となっております。また、佐賀県におきましては、平均が5,983円、こちらは全国平均よりも242円低い額となっております。そして、有田町の月額における基準額は前回から据え置きで5,600円としており、こちらは全国平均よりも625円安く、県内で、県内でも最も低い保険料となっております。以上です。

〔8番 福島日人士君〕 これも有田町の、この介護保険料は低く抑えられているということは、行政も一緒ですけど、町民も一緒になって健康づくり、あるいはそういうふうな催し物とか、老人会辺りは、そういうのを健康づくりをいろんな行事をやっておられます。それも一つの行政と一緒にやっていращやるということがプラスしているんじゃないかと思います。次に、団塊の世代が全員が2025年には75歳以上となります。65歳以上の介護保険料は今後の介護保険事業を考慮し、市町村や広域連合がそれぞれ3年に1度見直すようになっております。202

4年度からの65歳以上の介護保険料月額が全国平均で最高を更新しました。介護保険料の上昇には高齢者の増加とともに介護現場の人手不足も影響している。有田町の今後の対策や考えをお聞かせください。

〔今泉藤一郎議長〕健康福祉課長。

〔川崎健康福祉課長〕有田町としましてはですね、ちょっと2番議員さんの質問でもありましたけれども、有田町介護職員等の就職支援補助金を今年度からも引き続き実施をしていきたいと思っております。こちらは新たに介護施設に介護職員として就職した方に対して要綱で定めた補助金を交付する「有田町介護職員等就職補助金支援事業」となります。常勤職員が10万円、非常勤の方は5万円を交付しております。実績といたしましては、令和3年度が2名、令和4年度が16名、令和5年度が22名の方に補助金を交付しており、年々利用者数も増加しており、介護人材の確保につながっていると思っております。以上です。

〔8番 福島日人士君〕ありがとうございます。それと同時にですよ、介護保険料は、制度改正以来、40歳以上が払ってきましたが、この年齢引き下げも国は検討課題という若者から徴収すれば社会を挙げて支援すべき子育て世代に負担を強いることになる、少子化対策に逆行しかねないということを、年齢を引き下げるかどうかはまだ検討課題だと思いますけども。有田町ではそういうふうな健康づくりを、いろんな健康づくりをやっていらっしゃると思います。その辺をお聞かせください。

〔今泉藤一郎議長〕健康福祉課長。

〔川崎健康福祉課長〕介護予防に関する健康づくりということでよろしいですか。有田町としましては、今現在、推進しておりますのは、住民主体の通いの場を推進をしております。こちらが今現在19地区で実施をして頂いております。こちらの住民主体の通いの場におきましては、その実績といたしましては、俊敏性などの運動機能の向上が目に見えて明らかに向上しているという数値が出ており、今後有田町としては、この実施地区を増やしていきたいというふうに思っております。

〔8番 福島日人士君〕有田町では通いの場という地域でやっていらっしゃるところは今どのくらいいらっしゃるんですかね。部落ですかね。

〔今泉藤一郎議長〕健康福祉課長。

〔川崎健康福祉課長〕今現在、19地区で実施をして頂いておりますけど、今年度また新たに1地区増える、6月から、今月からですね、あと1地区増える予定であります。以上です。

〔8番 福島日人士君〕介護、有田町の介護保険料の低いというところが本当に見えていると思います。それは高齢者の方もそうですけど、グラウンドゴルフをしたりそういうふうにして健康づくりを一生懸命やられております。今後ともそういうふうな通いの場、あるいはこういう高齢者のグラウンドゴルフ、そういうふうな有効に活用されて、健康づくりができたかなと思います。よろしく願いいたします。それでは次に参りたいと思います。記念堂の、焱の博記念堂の公園の、文化の森の公園の利用について、公園内芝生のところでは、現在、年間を通していろいろなイベント、コンサートが開催されております。現在の利用状況をお聞かせください。

〔今泉藤一郎議長〕生涯学習課長。

〔千代田生涯学習課長〕ちょっと手持ちの資料でお答えをさせていただきます。令和5年度の実績になります。記念堂の建物内、それから屋外の広場等を含めまして公園の開園日数に対しまして、率にして約40%の利用がっております。各催し物、催事等に来られる来場者等まで含めまして、利用者が令和5年度で約5万3,000人となっております。以上です。

〔8番 福島日人士君〕この写真を見てください。1つめくって、こっちは芝生のところです。これは岡本太郎さんの記念像ですね。次をお願いします。ここは芝のコートですけども、これは西側にあります。もう一つお願いします。それも一つお願いします。これが一番広い芝生のグラウンドです。向こうに遊技場、子どもたちの遊具ですか、施設があります。この辺、ものすごい芝ですから、皆さん健康づくりに、ジョギングしたり、そういうことも、そしてご家族と一緒に遊んでいらっしゃいます。それでもこんな素晴らしい、この芝の公園というのは佐賀県でもないと思います。こういうふうな素晴らしい公園でありますので、町民の方に本当に多くの方が利用できるような状況を、今後、町でも進めてもらいたいなと思っております。そこで町長にお伺いしますが、高齢者がグラウンドゴルフをされている方々が町内の東地区、西地区合わせて200人から250人以上の方々が楽しんでおられます。グラウンドゴルフは高齢者の健康づくりに最適なスポーツです。この公園の中に一部にグラウンドゴルフのできるような会場ができたかなと思いますけども、町長いかがでしょうか。

〔今泉藤一郎議長〕生涯学習課長。

〔千代田生涯学習課長〕先程、年間の来場者が5万3,000人と申し上げましたが、これにつきましては、今、議員がおっしゃられた、休みの日に家族で来られるとか、ジョギング等されているという個人の方の利用は含んでおりません。おっしゃるとおり、高齢者に限らず、一般の子どもから大人までの利用者が多いというところで、今言われるグラウンドゴルフ専用の広場とい

う改修はちょっと厳しいかなと現在は考えております。以前はグラウンドゴルフ等をされる際は、ここの広場でもグラウンドゴルフをやられておりました。最近はちょっと見かけませんけども、今でも申請書を出して頂ければグラウンドゴルフを規制しているわけではございませんので、大いに活用して頂ければと思っております。以上です。

〔8番 福島日人士君〕大体、高齢者のグラウンドゴルフというのは、午前中、大体2時間程度の大会とか、そういう年間通して、そういうのスポンサーがあって、中央公園とか、戸矢の方の丸山公園の方でやっていらっしゃいます。それでこの芝のコートですけども、県大会、今年は国スポが記念堂でありますけども、そういう今年はグラウンドゴルフ大会は県大はありませんが、年間を通して何回かこういう芝のグラウンドに招待して、有田陶器市杯とか、そういうふうな開催をできるような状況にできないかなと思いますので町長どがんでしょうか。ご意見を聞かせてください。

〔今泉藤一郎議長〕町長。

〔松尾町長〕今、課長の方から説明がありましたように、やはりそこを使うということは、利用は我々はブロックしているわけではないので検討する余地はあると思っております。でも、芝生、聞いたところによると芝の方がボールのスピードを落とすとかいうことで、ちょっと使い勝手が悪いということでありました。その芝のところまで面倒を見てするということはちょっと今のところは考えておりません。

〔8番 福島日人士君〕芝というところも面白いところあるんですよ。普通はみんな中央公園みたいなきれいなグラウンドでやっているんですけども、芝は芝の独特のゲームができます。楽しめると思いますか、そういうふうな。年間1回とか2回とかですよ、何回もするあれではないかもわかりませんけれども、1度か2度は、午前中の2時間とか3時間ぐらいの間でできますので、将来そうふうなできたらなと思いますので今後よろしく願いいたします。それで、これは3月に佐賀の市長の坂井市長とマラソンランナーの君原健二さんが佐賀新聞の対談で3月に掲載された文章の中で、君原健二さんがちょっと仰ったことですけども、これは答弁は要りませんので聞いて頂きたいと思います。人生の走り方、あなたにも自分に合った生き方のスライドがある。メキシコオリンピックのマラソン銀メダリスト君原健二と佐賀市の坂井英隆市長も国スポ、全障スポを半年後に控える中、開催されるさが桜マラソンを通してスポーツと応援の持つ力について熱く語り合われた。君原健二さんは人生はマラソンという人もいますが、私はむしろ駅伝に似ていると思います。駅伝はタスキをかけてチーム全体の責任を背負って走るのです、結構つらいです。毎

日が修行のようなものです。私は一番頼りになるのは努力だと思います。頑張った努力は必ず報われます。東京オリンピックの時の声援は夢中で走っていたのであまりよくわかりませんでした。が、佐賀市の桜マラソンは30回も走っているのです。沿道の市民の皆さんだけではなく、走っているランナーの方からもたくさんの応援をもらいます。私はゴール無限と言っているのですが、人生いつまでも走り続けなければいけない、ゴールで終わりではなく、頑張り続けなくてはならないと思っていて、そういう人生を生きたいと思っていますとおっしゃっております。皆さん、こういうあれはどういうふうにお考えなのかわかりませんが、個々に考えて頂いて、自分の今後のあれにしてもらいたいと思います。次に、3番目の本村楠木原線と佐世保市横手町への接続道路の対応についてお聞きいたします。現在の進捗状況、図面、地権者側、両町との話し合い等はできているのでしょうか、進捗状況をお聞かせください。

〔今泉藤一郎議長〕建設課長。

〔館林建設課長〕お答えいたします。この道路は、本町、有田町の楠木原地区から県境を越えて佐世保市が管理しています、市道楠木原線を通り佐世保市の横手町へつながる道路であります。現在、有田町、佐世保市を含めて道路の改良の早期事業の完了を目指し、担当部局と毎年、年度初めの方に調整会議を行い、双方の進捗状況並びに今後の取り組みや進め方について話し合いを行っているところです。そこで有田町側の路線の進捗状況につきましては、道路改良延長は約70mあり、道路の詳細設計、事業用地の取得に向けた面積の確定、物件移転補償の算定が完了したことから、現在、土地の、用地の補償の契約締結に向けまして地権者と交渉を行っているところです。その後、契約締結がなされれば、登記手続きを行い、完了したところで、工事の方の着手に移っていきたくと考えております。その後、令和7年度末を事業完了の目標として考えているところであります。同じく佐世保市側の状況につきましては、有田町と同様で、事業用地の取得に向けて、現在、地権者との交渉を行っていると聞いております。今年度中に事業の方の工事に着手し、佐世保市側も令和7年度末を完了目標として考えているということで聞いております。以上です。

〔8番 福島日人士君〕令和7年度中には大体の目安は立つといいですか、その辺は町長どういうふうに思われてますでしょうか。

〔今泉藤一郎議長〕町長。

〔松尾町長〕今、課長が申したとおり、我々も令和7年、佐世保市さんの方も令和7年ということで、目標に向かって粛々と今進んでいるという状況だと理解しております。

〔8番 福島日人士君〕あの道路が開通したら本当に、とにかく車ものすごく増えると思います。佐

世保市からの交流もどんどんできるんじゃないかなと思うし、工業団地にも高速からの近道でもありますし、本当に非常に楠木原地域辺りはすごく変わるんじゃないかなと、そういうふうに思われます。こういうふうな移住、今、本当に若い人たちがどんどん町を離れて出ていきますので、町民の減少はどんどんまだまだ続くと思いますので、そういう人口の流れをやっぱり有田に止めて、移住定住などもどんどん進めて頂けたらなと思うのが強いです。あの道路が通れたら本当に交流がどんどんできるんじゃないかなと思いますので、ぜひ町長早めに進んで頂いて、有田町の発展のために尽力して頂きたいと思います。よろしくお願いします。

〔今泉藤一郎議長〕すみません、8番議員、申し訳ございません。質問事項の、2. 歴史と文化の森公園利用について、質問要旨（2）の、コミュニティバス活用対策をということで、ここに掲げてありますが、その件に関しては。

〔8番 福島日人士君〕その辺もありますけど、コミュニティバスのお聞きしたいんですけども、ただ、コミュニティバス自体はもうあそこの公園の手前までしか行かないという状況ですもんね。本当はやって頂きたいんですけども。そういうふうな、今後そういうふうな利用ができれば高齢者の方がもっと、高齢者の方も一般の方も公園を利用できるような状況が出てくるんじゃないかなとそういうふうに思われますので、それは今後の課題としてですよ、また質問をしたいと思っています。以上で終わります。よろしくお願いします。

〔今泉藤一郎議長〕8番議員 福島日人士君の一般質問が終わりました。10分間休憩いたします。再開を10時35分といたします。

【休憩10：26】

【再開10：35】

〔今泉藤一郎議長〕再開します。13番議員 梶原貞則君。

〔13番 梶原貞則君〕13番 梶原貞則でございます。議長の許可を得ましたので、一般質問をさせていただきます。今議会の最後の一般質問でございます。ご答弁の程よろしくお願いいたします。今回の私の質問は、企業誘致についてこの1本でございます。どうぞよろしくお願いいたします。松尾町長が町長に就任されて早6年になるわけでございますが、その間、トップセールスということで自ら全国を駆け回り企業訪問をされて来られました。そこで今まで誘致された企業が多々あると思います。その数、また、その社員数をお教え願いたいと思います。

〔今泉藤一郎議長〕まちづくり課長。

〔吉永まちづくり課長〕町長の１期目の任期である、平成３０年度から現在までの企業誘致数は７社になります。全て事務系の企業になり、その社員数に関しましては４０名程度となっております。また、既存の立地企業さんがあります。前原工業団地の方になりますけど、ここを含めると平成２９年４月１日の町長就任前の社員数が大体４５０名、令和５年４月１日の社員数が５３２名となっております。

〔１３番 梶原貞則君〕７社の社員数が４０名、また、他のところと合わせて約８２名が増えているということでございますね。これは地元の方とか、そういう内訳、または新入社員とか、そういうところはお分かりじゃないでしょうか。

〔今泉藤一郎議長〕まちづくり課長。

〔吉永まちづくり課長〕すみません、そこまで細かなところまでの把握までは出しておりません。

〔１３番 梶原貞則君〕わかりました。今朝のこの佐賀新聞にありますとおりに、昨年の日本の出生率が過去最低１．２０となり、出生数は７２万人と過去最低、また人口も毎年減少し続けております。有田町もそのとおりであります。そこで有田町におけるこの６年間の人口の推移、また、出生数の推移をお教え願いたいと思います。

〔今泉藤一郎議長〕住民環境課長。

〔淵住民環境課長〕６年間の人口の推移について及び６年間の出生数の推移について申し上げます。

参考までに合わせて平成１８年４月１日の人口及び平成１８年度の出生数についても申し上げます。人数については、有田町のホームページに掲載しております「人の動き」からの数字になります。平成１８年４月１日人口２万２，１６０人、平成３０年４月１日２万１９４人、平成３１年４月１日１万９，９１１人、令和２年４月１日１万９，６８６人、令和３年４月１日１万９，３８９人、令和４年４月１日１万９，１４５人、令和５年４月１日１万８，９８６人、令和６年４月１日１万８，６７５人、平成３０年４月１日から令和６年４月１日までの６年間で１，５１９人の減少となっています。また平成１８年４月１日から令和６年４月１日までの１８年間では３，４８５人の減少となっています。次に出生数です。平成１８年度出生数１６２人、平成３０年度９９人、令和元年度１２３人、令和２年度１１１人、令和３年度１０３人、令和４年度１０２人、令和５年度７３人、平成３０年４月１日から令和６年３月３１日までの６年間の出生数は６１１人となっています。以上です。

〔１３番 梶原貞則君〕ありがとうございます。出生数も本当に昨年、国と同じように１００人を大幅に切った７３名と大変危惧する数字でございます。また今年度も４月、５月は出生数が出てい

と思います。また、6月からの数はある程度は母子手帳の交付数でわかると思いますけども、そこら辺わかる数をお教え願いたいと思います。

〔今泉藤一郎議長〕健康福祉課長。

〔川崎健康福祉課長〕令和6年度の母子手帳交付状況をお答えいたします。6月からの出産予定日基準で申し上げますと6月が6人、7月が7人、8月が12人、9月が5人、10月が7人、11月が7人、12月が6人、ちょっと以上までとなりますけども。6月以降12月までで合計50人の出産予定となっております。以上です。

〔13番 梶原貞則君〕ありがとうございます。以前頂いたデータで、4月の出生数が9名、5月が9名、先程の6月が6名の母子手帳ですね、7月が7名、8月12名、9月5名、この4月から9月までの半年間で約48人ということで。これを2倍すると年間、単純にですね、96名ということで、100人に近いということで昨年よりはグッと増えたということで少しは安心するわけですが、これが続くかどうかということだと思っております。また、広報ありたで毎月の人口動態が毎月出ております。先月よりも何人減ったというふうな数字が毎月出ておるわけですが、4月号に3月から4月に向けて4月1日の動態が計算しますと、110名減っているということでございます。昨年1年間で311名減っているということで、この1ヶ月で3分の1が減っているわけです。そこら辺、ずっと毎年の4月を見てみますと、本当に3分の1ぐらいずつが4月で減っている。年間ですね。よく言われる18歳、22歳、高校出てからと大学を出てからの数字がよその学校に行って、その時は住所を移さないでもやはり就職した段階で移してしまうということで減っているわけです。地元に戻ってくるような企業が仕事場が少ないということが大きな原因、また学校とかの近くに就職してしまうということが多々あることだと思っております。こういうことで予想して以前から南部工業団地の開発に取り組んでいることではありますが、南部工業団地の開発の経緯をお教え願いたいと思います。

〔今泉藤一郎議長〕まちづくり課長。

〔吉永まちづくり課長〕南部工業団地を開発することになった経緯ですけど、町としては、その当時ですね、雇用の創出や地域経済の活性化を目的として産業団地の造成の方を検討の方を行ってまいりました。その中で佐賀県が、大規模工業団地造成を事業として、新産業集積エリア事業の募集を開始されておりました。この事業を採択を受けると、団地造成に係る事務手続きや費用面、負担の面で、町独自で実施する場合と比較して開発に係る各種コストの低下が見込まれるため、平成19年11月に県に対して新産業集積エリア事業の申請を行っております。事業採択にあつ

では、面積や既存交通インフラ整備の状況等の諸条件がいくつかございましたが、南部工業団地の方がこの条件にクリアしたため、平成20年3月に事業採択及び整備地の決定がなされております。この佐賀県新産業集積エリア事業ですけど、これは雇用創出や経済効果の大きな大規模企業や新エネルギー産業など重点誘致産業が立地可能な工業団地を佐賀県と市町が一体となり共同で整備する事業となっております。また県と市町の役割分担が決まっており、県の役割分担としては、整備方針の決定、策定、調整、規制関係の調整、国等の協議、現地測量、基本設計、環境調査。市町の役割としては、地元調整、実施設計、用地交渉、買収保障、造成工事、維持管理等になっております。誘致の活動につきましては、県と町が一体となって取り組み、費用負担については、事業費、起債の利子等について県と町で2分の1ずつ、つまり折半となっております。

〔13番 梶原貞則君〕事業採択が20年に行われたということで、その後、開発とか行われた、開発の前に土地の取得ですね、こういうことが行われたと思いますけど、その経緯をお教え願いたいと思います。

〔今泉藤一郎議長〕まちづくり課長。

〔吉永まちづくり課長〕平成20年以降の事業採択後の動きですけど、基本的に平成20年度に基本設計、地質調査、測量設計、環境調査の方を実施しております。平成21年度に地元及び地権者への説明会、測量調査、道路測量、実施設計、地質解析調査の実施をしております。平成22年度からは開発行為の同意を得るための個別協議に入っています。平成23年度には大規模開発行為事前審査の方を完了しております。平成24年度に開発行為の同意を得るための個別協議が12月に完了し、地権者説明会及び土地補償費の個別契約の方をここから始めております。平成25年度に佐賀県、長崎県に開発行為許可申請、本申請の方を行い、及び林地開発の届出、農地転用の許可申請の方を行っております。平成26年度に土地補償費の個別契約が完了し、平成27年度に開発行為許可及び林地開発、農地転用許可となり、造成に向けた準備がこの時点ではほぼ終了しております。その後はオーダーメイド方式という形で視野に入れて誘致活動を行っているという状況になっております。

〔13番 梶原貞則君〕20年度に開発許可が下りて、26年度に全てが取得した、これから造成とか販売に行くということだったわけですが、6年もかかったということで、最初と20年度と6年かかった後の事業費とか、そういう変化はどのようになっていますでしょうか。

〔今泉藤一郎議長〕まちづくり課長。

〔吉永まちづくり課長〕平成20年度から基本設計の方を行っておりまして、それに基づいて平成22年5月に議会の方に説明しようとして資料の方を作成しております。この資料でいきますとですね、総事業費を29億7,000万円、この場合の概算分譲価格としては、平米あたり1万3,900円と試算しておりました。現時点ですけど、試算になりますと、一応、総事業費は39億7,800万円で分譲価格は平米あたり1万9,014円程度になります。この総事業費の増加につきましては、造成工事費が大体22億円から32億1,900万円と大幅に増額しております。この理由としましては、賃金や各種単価の上昇、消費税率の変更が増額の要因と考えております。

〔13番 梶原貞則君〕ありがとうございました。この6年間に南部工業団地に誘致しようとして10年今かかったわけですが、26年からですね、交渉した企業数、その企業数は何社ぐらいあるわけでしょうか。

〔今泉藤一郎議長〕まちづくり課長。

〔吉永まちづくり課長〕この交渉しようという企業数はですね、ちょっとなかなかあいまいなところでございますので、一応うちの方で試算したところで申し上げたいと思います。南部工業団地につきましては、用地買収や開発行為が完了した平成28年度ごろから誘致活動の方を行っております。年によって変動があり、いろいろとかぶさりもあつたりしますので、令和5年度の実績で申し上げますと、有田町単独で、まずはメールや電話等でアンケートとか、アポ取り等を実施の方を行った企業数が約300社、県がDM等での調査数が約7,600社、合計で約8,000社となります。

〔13番 梶原貞則君〕今の答えは令和5年度に町がメール、電話したのが300、県がしたのが7,600で、具体的交渉が2社ということですが、その前、28年からということですが、それを併せたら何社の交渉があったわけでしょうか。

〔今泉藤一郎議長〕まちづくり課長。

〔吉永まちづくり課長〕具体的な交渉に関しましては、複数回やり取りした企業が一応2社という形になっております。このうちですね、誘致に至らなかった理由になりますけど、2社のうち1社の方はちょっと理由の方が明らかにされておられません。1社の方は基本的なスケジュール感という形になっています。企業誘致のこの面談等を行う中で、私どもが感じたところと言いますと、この南部工業団地の方が具体的に進まない理由として、まず水量、あとスケジュール感、雇用と、この大きくこの3つの点があるというふうに考えます。水量に関しましては、半導体関連事業と

なりますと、大量の水を使用しますので、例えば一例として、現在、熊本県の方に立地しているTSMCですね。こちらの方が1日あたり大体1万2,000m³の水を、水量を必要としますが、今のところ南部工業団地の方では1日あたり1,200m³の水の量しか供給できないという状況でございます。また、雇用に関しましても、規模感が大きな企業となりますと、非常に雇用人数も大きくなりますので有田町及び近隣での必要な雇用数を確保することが今のところ非常に難しいという現状があります。以上が誘致に至らなかった理由というふうに考えております。

〔13番 梶原貞則君〕スケジュール感というのはどういう、具体的にお願いいたします。

〔今泉藤一郎議長〕まちづくり課長。

〔吉永まちづくり課長〕スケジュール感につきましては、具体的に企業さんの方が持っていращやる進出のスケジュールと、うちの方が造成まで入れた時のスケジュール感の方がマッチしなかったのではないかとこのように思っております。

〔13番 梶原貞則君〕以前からも、やはり造成しないと、造成したところを見ないと販売が難しいんじゃないかと、この議会でも私も言ったことがありますけども。ほかの議員さんからの質問があると思います。例えば宅地を売るにしても、そこに団地ができるのに、山を見て、ここを拓くから100坪買いませんかと、拓いてみないと土地値段は5万か、7万か、8万か、分かりませんとか、そういうことじゃなかなか売れないんじゃないかなと思います。武雄市の集積エリアで以前されて、早いうちに売られたわけですけども。その昔担当だった方に聞いてみますと、やはりあちは16ヘクタールあって、なかなか全部売るのは最初は戸惑った。ただ早く拓いたから、やっぱりそういう写真とかなんとか見せる、また来てもらって見せる、そういうことで売れたということでございます。県の要望としては1社で全体を売れるような大規模な会社がということでしたけども、最終的には武雄は3つのエリアに県にも言っていたそうです。それと武雄の工業団地ですと全国に営業に回っても、武雄ってどこですかと、なかなか、武雄市というのはこういうところだと地図を見せて、ああ佐賀県というところですねと、なかなかわからないと。そこで一転して武雄が知られるようになったのは、前市長が市立図書館を民間の本屋さん、また喫茶店がそこに入って運営すると、全国版で新聞に載った、そしたら急に、ああ、あの武雄ですねと本当に有名になって営業がしやすかったということでした。有田はその辺、武雄のどこですと言われたときに、有田の隣ですとか、そういうこともあったようです。なかなか有田は最初から名前が通って、全国的には通っていると思います。その中でも場所って言われたときに佐賀県って言った時に、佐賀県か長崎県かやはりわからない。また若い人は有田焼というのを、

やきものを、おせんべいですかとか言う人もいるような感じで、知らない。今SNSで発信とか、また動画の有田を発信する西浦ありささんですかね。動画も作って、宣伝しているわけです。やはりそういうSNSを使った広報ありたをもっともっと宣伝する施策が大事かと思うわけですが、その点について町長いかがでしょうか。

〔今泉藤一郎議長〕町長。

〔松尾町長〕まずですね平成26年度に準備に向けたことがほぼ終了しております。その次のステップとして、平成27年度に開発行為許可及び林地開発、農地占用許可となり、造成に向けた準備がほぼ終了しているということで先程課長からも説明ありました。やはりその時点でしっかりとオーダーメイド方式ではなく、時の執行部が進めていくべきではなかろうかと思って、個人的には思っておりますが、それは過去のことですのもう言ってもしょうがありません。私も町長になりまして、すぐに例えば森村グループ、ノリタケさんとか、日本ガイシ、日本特殊陶業、大倉陶園、森村商事含めて職員を伴ってどうでしょうかと聞きました。そしたらあと3年早かったら良かったよということは、以前の答弁でもお答えしたかもしれませんが、そういった実例もあります。また、京セラさんとか、やきもの、特に窯業のファインセラミックス、ニューセラミックスに親和性のある企業を選んで前半の2年は回っておりました。そのような中でやはりコロナが来て、コロナの手前では造成しなくてはいけないということで、全てを利用した造成ではなく3分の1とか3分の2でもできることがあるんじゃないかということでコンサルに入ってもらって、いざやろうとした瞬間に実はコロナが来てしまって、ちょっとフリーズした状態でありました。その反省を踏まえて、私も大手デベロッパーとか、スーパーゼネコンさん、いろんなゼネコンさん、そして皆さんが知っているような商社とかメーカーいろんなところに顔を出して、役員さんとか、九州の支社長とかいろんな方にお会いをしてきてまいりました。ざっと何百人とは言いませんけども、片手では500人は上るとは思います。でもそれでもやはり拓いてないという状況がやはりネックになっているなどは肌で感じております。そこで、そういうことを含めながらやはり労働人口というところもありまして、やはり伊万里さんのSUMCOさんも新しい工場ということで募集をかけておられますが、なかなか人口が、労働人口を集めることができないということでプロジェクトチームを立てられたりもしております。そのような状況の中でどのような造成をしてどのような企業に来てもらうのかというのをもう少し幅広く描く必要があるのではないかなと思っております。日本はものづくりの国としていろいろ進めてまいりました。また県としても一緒にものづくり産業を誘致をということで動いてまいりましたが、やはりこの時点でコロ

ナが終わって新しいゲーム、ルールというか、企業の進出のルールも変わってきているのではないかなと思っております。今後、製造業だけではなく、いろんなところにも誘致に行けるように、今、県の企業誘致のトップの方ともお話をしながら進めてまいっております。やはりこの厳しい状況だと重々わかっておりますが、我々としてもただ指をくわえて待っているだけではなく、受け身でなく、攻めております。その攻めが足りないと言われればそうかもしれませんが、ぜひ議員の皆さんとか、町民の皆さんからあそこに行け、ここに行けということがあれば私はトップセールスと思って行っておりますので、どんどんあそこに行けという指示を出して頂ければそれが結果として結びつく、つかないは、あくまでも結果であります。やってダメだったらあきらめもつきますが、やらないで指をくわえていることだけは私は避けていたいと思っています。新たな展開としまして、いろんなものづくり以外のところでも実はちょっといろいろお話があっておりますが、またここではお話ができないような案件もございます。例えば商社さんとお話をしていると、先程もありましたが、新エネルギーを使ったような新たな工業団地の造成の方法もありますということでそういったところがないかということでお話も聞いてもらっております。そういったところでいろんなお話があります。私もここを拓きたくないのではなくて、なかなかご縁がないというのが実情であります。しっかりと別に東京ばかり行っているわけではなくて、いろんなところでお話もしてますが、なかなかご縁がないというのが状況であります。是非今後とも私は積極的にこの南部工業団地またほかの事務系の企業等に関しても積極的に営業活動をしていきたいと思っております。

〔13番 梶原貞則君〕今回いろんな人の質問の中でも有田町のホームページが新しくなって見やすくなったとありました。ただ、こういう写真付きでの南部工業団地のページがあるわけですが、ここに至るまではなかなか難しいと。もう少し最初のページからいけるような一般の人が見られるようななかなか見ないのかもしれませんが、誰が見るのかわかりませんので、そこから飛ばすようなことをして頂けたらいいかと思います。やはりいろんな建ぺい率とかいろんな条件がっております。先程の供給可能水量もあります。ただ、土地の面積をみて、単価は未定と、未定じゃやはりお話にならないかなとか、さっき申しましたとおりに5万から6万とかある程度のことは書いておくと、先程の申したとおりに県の7,600、有田町が300の電話、メールした中で具体的には今までに2社しか交渉のテーブルに乗ってないということはどういうことかなと、やはりテーブルに乗るようなことをしていくべきかなと思います。水量に関してはあるセラミック関係の会社の方に聞いてみますと、水が少ないところは極端に少なかったらあれです

けども、ある程度日本では浄化して2度も3度もリサイクルして使うシステムもあると、そういうことのようにです。ぜひそこら辺も考慮して頂きたいと思います。また、雇用が足りないと、先程も申しましたとおりに4月に110名が減ったりと、この6年間の4月だけを見ますと510名ぐらいが減っています。年に80何名、毎年減っている、それは新規の方と、人口ですので、移動がありますので、若者だけじゃないかと思いますが、特にそこが多いというのはそれだけの人たちが外に若者が出ていくと。昨日の9番議員の質問でも若年の女性の人口減が言われておりました。やはりその方たちがゆくゆくは子どもを産む世代になって、出生率というのは女性たちが産む数字ですので、率ではなくて本当の数字ですね、率だったら分母が特に少なかったらもっともって数は少なくなるわけです。やはりそこを町長は昔から言われておるとは思いますけども、本当熟慮してそこら辺の人たちが雇用できるやはり雇用というのは好きな会社がないというのがありますけども、出生数が少ないのは結婚できない人たちも増えていると。非正規の職員が今多いということで、昔は終身雇用というのがあって、ゆくゆくある程度の保障があって、結婚してもいけるというのがあったわけですけども、なかなかその不安感で結婚をできない、男性も女性もですね、そういう方たちも多いかと思いますが。ぜひそういうところも考慮して、ぜひ雇用ができるようなある程度の大きい会社もぜひ必要かと思っておりますので、前向きに、そして本当にSNSで松浦ありさんを作っておりますけども、制作しておりますけども、その表に出るのがイメージ少ないのじゃないかと思っておりますけども、町長そこら辺はいかがでしょうか。

〔今泉藤一郎議長〕町長。

〔松尾町長〕今、松浦ありさんと言われましたけども、西浦ありさんです。この件に関してはPVも作りまして、13万回ということで今、表示されておりましたが、それが少ないか高いかは皆さんの判断だと思いますが、私が担当のトミーテックさんとか、ポニーキャニオンさんと話している中ではすごい数だということでもあります。ここをきっかけに我々もしっかりとやっていきたいなと思っております。また、別件になりますけど、ガンダムのマンホール等も含めていろんな今アニメで仕掛けをしております。今、正式に福山のアニメの大会が秋の方でなんかあるみたいなんです。ぜひ、そちらの方に有田と何か競業できないかということでお話ももらってます。ちょっと企業誘致とはまた別の話にはなりますけども、そういった今アニメの中では佐賀県自体も元々ゾンビランドサガということで非常に注目を集めている中で、有田は有田なりの独自の路線をいっているねということで福山のアニメの事務局長の方から今連絡を頂いている状況であります。これも昨日、私もらいましたので、まだ誰にも言ってない状況ではありますが、ぜひそういっ

たところ含めてやっていきたいなと思います。今の子どもたちはテレビは見なくて、もうほとんどユーチューブだったりという世界でありますので、そういった２次元の方にもしっかりとプロモーションをかけていながらそれを見た人たちが有田って面白いところだなと思って企業誘致も含めて気づいていただけるような仕掛けづくりを今後もしていきたいと思います。

〔１３番 梶原貞則君〕我々の世代は、いろんな検索をするのは、グーグルとかヤフーとか、そういうことだったということですが、今の若い人たちはインスタで検索してもうすぐその画像ですね、そういうことで検索がいつているということで、全然やはり昔はテレビ・新聞だったのがそういうふうに変ってきていると。やはりそういう情報の出し方もぜひ検討なされて、また地域おこし協力隊にもそういう方たちをぜひ入れて、ぜひ町のＰＲに努めて頂きたいと思います。これにて質問を終わらせて頂きます。ありがとうございました。

〔今泉藤一郎議長〕１３番議員 梶原貞則君の一般質問が終わりました。ここで５分休憩いたします。再開を１１時１５分といたします。

【休憩 １１：０８】

【再開 １１：１５】